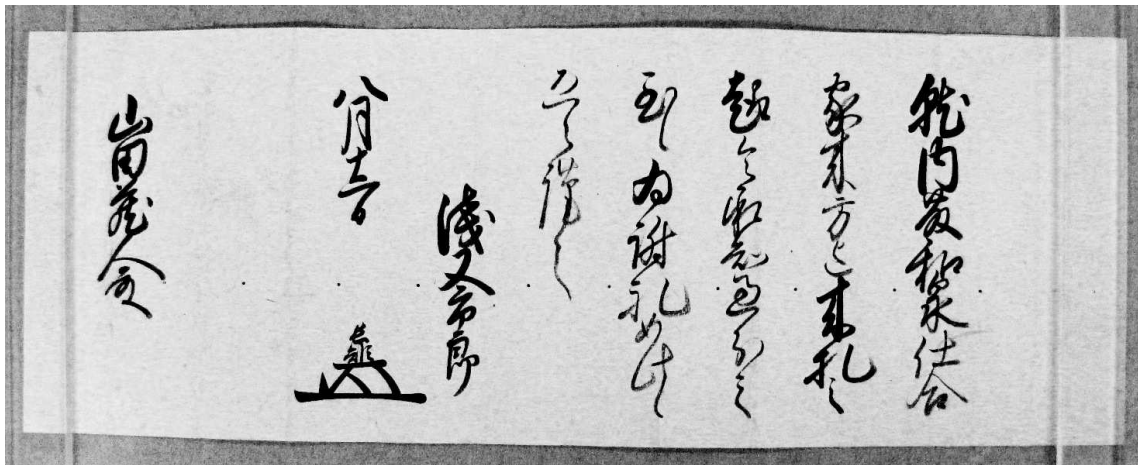


赤穂藩主・浅野長矩(内匠頭)書状 (延宝8年)8月12日 山田家文書(8810-45)

浅野長矩は、延宝3年(1675)に9歳で赤穂藩主となり、延宝8年に内匠頭となっている。この書状の1行目に見える「内藤和泉」というのは長矩の母方の叔父に当たる鳥羽城主内藤忠勝のことである。忠勝は、延宝8年6月に芝の増上寺において永井尚長を刺殺するという事件を起こし切腹させられている。「内藤和泉仕合」というのは、この事件を指しているのであろう(仕合とは事柄のいきさつというような意味である)。忠勝の事件について山田蔵人から長矩のもとに何か見舞のような書状が届いたので、それに対する礼状である。奇しくも長矩自身同じような事件を起こして切腹・改易という運命をたどることになるが、それは、これより約20年後のことである。



就「内藤和泉仕合」

家来方迄来札之

趣令「承知」、過分之

至候、為「謝礼」如此候

恐々謹言

浅又市郎

八月十二日 長矩(花押)

山田蔵人殿